

《金銅釣灯笼》と企画展「真清田神社展」の開催 ..... 1  
 館長あいさつ ..... 2  
 博物館アルバム(平成30年度) ..... 3~5  
 一宮市・若宮前遺跡の大量出土銭 ..... 6~9  
 福塚前遺跡発掘調査について ..... 10  
 平成31年度 展覧会・催し物のご案内 ..... 11・12

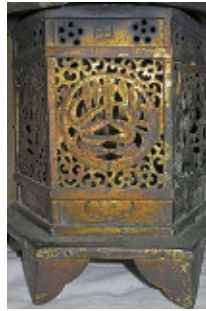
# 一宮市博物館

## だより

No.62 2019.3



外底刻銘



火袋・脚



《金銅釣灯笼》

### 《金銅釣灯笼》と 企画展「真清田神社展」の開催

平成30年8月24日、真清田神社所有の金銅釣灯笼の(2基・写真)が新たに愛知県指定文化財(旧一宮市指定文化財)となりました。今回の指定は、高さに比して火袋の径が大きく、笠の吹返しや脚が大きく張らないことから中世の作風を見せるも笠の甲盛(蓋の表面が滑らかに盛り上がる曲面に仕上げられた状態)に量感を持たせる点などが、桃山時代に顕在化した近世の釣灯笼の特色の先取りともいえ、永正15年(1518)(外底刻銘「永正十五年戊寅三月五日 銀細工西川弥五郎定盛 祓宝前家次一銭勸進仕候」)を前後する室町時代後半期の基準作例として、愛知県下ではきわめて希少な中世の釣灯笼として重要であるということが評価されました。この指定を受けて、真清田神社の指定文化財の件数は、国指定2件、県指定3件、市指定7件、国の登録有形(建造物)3件と、合わせて15件となります。また国の指定を受けている「木造舞楽面」と「朱漆角切盤・朱漆入角盤・朱漆撃子」の一部は東京国立博物館に寄託されています。真清田神社に併設されている宝物館には、これらの指定文化財をはじめ数多くの宝物類が大切に保管されています。

さて、鎮座から2600年余の歴史をもつ真清田神社のはじまりについては明らかではありませんが、社伝によれば神武天皇33年(紀元

前628年)に、天照大御神の孫神天火明命が  
大和国葛城の高尾張邑からこの地へ鎮座した  
とされています。しかしながら、真清田神社が歴  
史上に初めて登場するのは9世紀において『統  
日本後紀』の承和14年(847)11月条に、尾張  
国丹羽郡二之宮村(現愛知県犬山市)に鎮座  
する大縣神社とともに無位から従五位下の  
神階を賜ったという記録で初めて登場します。し  
かし、真清田神社にはそれらを物語る資料がほ  
んど残されていないため9世紀から16世紀に  
かけての歴史はまだまだ霧の中に包まれています。  
また享徳4年(1455)の焼失や天正13年  
(1585)の天正大地震などの火災や戦乱・  
荒廃などの危機によつて焼失や流出した宝物  
も少なくはありません。昭和20年7月の二宮空  
襲による焼失はもつとも多大なものでした。

博物館では、現在、真清田神社の協力のもと  
宝物館において宝物類の調査を実施していま  
す。この調査を踏まえて真清田神社に大切に  
伝え残されてきた宝物類をご紹介する展覧会  
を、左記のとおり開催いたします。真清田神社  
の宝物類が博物館で公開されるのは平成6年  
(特別展「二宮の名宝(Ⅳ)」において)以来25年ぶ  
りの開催となります(真清田神社のみでの企画  
は初めて)。ぜひこの機会に、貴重な宝物を神社  
の歴史と重ね合わせながらご覧ください。  
会期：2019年9月3日(火)～9月29日(日)

(学芸員 石黒智教)

# 館長あいさつ

当館は昭和62年11月に開館してから今年で32年目を迎えます。私は、平成30年4月に当館に赴任しましたが、間もなく改元が行われようとしており、このまま行けば、私は「平成最後の館長」となります。だからどうというわけでもないのですが、博物館の歴史を振り返るとほぼ平成時代ですので、平成を総括するという意味も込めて、これまでの博物館の事業から人気の高かった催しをご紹介します。と思います。

博物館の活動記録としては、事業報告をまとめたものが隔年で「宮市博物館年報」として発行されています。この年報には、今まで開催した特別展や企画展の内容が事細かに書いてあり、その催しが「ウケ」たかどうかは入館者数を見れば一目瞭然です。ただし、それぞれ開催日数が異なりますので、比較のために開催期間中の1日あたりの平均入館者数で多い順に並べてみました。

ぶつぎりの1位は、平成15年に開催した秋季特別展「MOA美術館名品展〜黄金の茶室とわび茶の世界〜」です。1日あたりの平均入館者数だけでなく、延べ入館者数でも断トツです。豊臣秀吉ゆかりの「黄金の茶室」が人気を呼び、臨時駐車場を用意するほどの混雑ぶりでした。2位は平成7年の秋季特別展「川合玉堂 郷土が誇る近代日本画の巨匠」です。川合玉堂展は、平成19年の没後50年記念特別展も7位に入っており、人気の高さがうかがえます。3位は昭和62年の開館記念特別展「二宮の名宝(I)―真清田神社と妙興寺―」です。何といっても新規オープン時ですからこれは納得です。

こうして入館者数を比較すると、逆にどんな催しが「ウケ」なかったかも何となく見えてきます。どうやら、「一宮の遺跡や民具などの」地味な」テーマは残念ながら

それほど集客力が高くないようです。では、入館者が少ないテーマの催しはやめてしまえばいいのでしょうか。

博物館の目的は「郷土の歴史、文化遺産に関する市民の理解と認識を深めるとともに、教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことにあります。人が呼べる催しならなんでもいいわけではありません。集客にこだわり過ぎると、ともするとその目的から離れてしまいがちです。例えばもし「ワン・オブ・スズ」なんていうのを企画したら間違いなく多数の入館者が見込めると思いますが、あえて「宮市博物館でやる意味は何かと尋ねられたら答えに困ります。「一宮の歴史や文化遺産を紹介するのは、やはりこの博物館でしかできないことだと思えます。入館者が少ないからと言って、そうしたテーマを扱わないというのは博物館設立の趣旨にそぐわないような気がします。とはいえ「市民の理解と認識を深める」ためには、できるだけ多くの人に来ていただくことはとても重要です。わかる人だけに来てもらえばいいわけではありません。あまりにマテックで一般の人には理解できないような内容の催しは、単なる「自己満足」になってしまいます。

「こんなところに博物館があつたんだ。」「初めて来たけど、結構いいところだね。」開館から30年以上経つていても、こんなお客さんの声を聞くことがあります。まだまだ知名度が低い、宣伝が足りないと思います。まずは博物館を知ってもらうて足を運んでもらうために、時には客寄せパンダ的な催しも必要かもしれません。もちろん、理想は「宮市博物館」ならではの催しを、できるだけたくさんの人に見に来ていただけるようになることだと思えますが、とにかく何でもいから一度来てもらって博物館の存在を知ってもらわないことには始まりません。というようにことをあれこれ考えていると、ぐるぐるの堂々巡りしていることにふと気づきます。

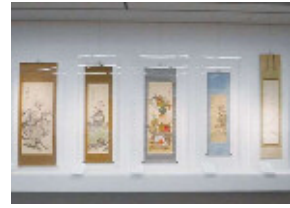
(館長 野中裕介)



順位	催し名称	開催期間	入館者数(1日当り)人
1	特別展 MOA美術館名品展 ~黄金の茶室とわび茶の世界~	H15.10.10~11.9	25,414 (941.3)
2	特別展 川合玉堂 - 郷土が誇る近代日本画の巨匠 -	H7.10.21~11.19	9,731 (389.2)
3	開館記念特別展 一宮の名宝(I) - 真清田神社と妙興寺 -	S62.11.13~12.6	8,169 (389.0)
4	企画展 2001一宮市現代作家美術秀選展	H13.12.22~H14.1.6	2,675 (382.1)
5	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会	H28.9.16~9.19	1,451 (362.8)
6	特別展 棟方志功と佐藤一英	H4.4.25~5.24	8,911 (356.4)
7	特別展 没後50年 川合玉堂名品展	H19.10.20~11.18	8,030 (308.8)
8	特別展 宮沢賢治生誕百年記念 賢治・志功・一英 一児童文学を巡る人々	H8.4.27~5.26	8,023 (308.6)
9	特別展 シルクロード陶彩の華 人間国宝 加藤卓男展	H11.1.10~1.24	4,367 (291.1)
10	一宮市子ども写生大会作品展	H17.8.19~8.28	2,550 (283.3)

企画展「幸せをよぶ花鳥画展」

平成31年6月2日(土)~7月8日(日)



撮影スポット

一宮市博物館に所蔵あるいは寄託されている絵画には、江戸時代の繊細な表現による花の作品や、鳥や猿などの動物を精緻に描いたものが多数あります。本展覧会では、多数の所蔵品の中から、とくに植物や様々な生き物を描いた東洋の「花鳥画」に注目し、あわせて縁起の良い動植物の模様や図柄があらわれた工芸品も紹介しました。

日本の花鳥画は、室町時代から江戸時代にかけて中国美術の影響を強く受けながら発展し、子孫繁栄や長寿、立身出世などの願いが込められているものが多くあります。例えば、当館寄託の森半逸「華果競香之図」(若宮神社八幡宮蔵)を詳しく調べてみると、不老長寿を表す桃や、子孫繁栄を意味する石榴、多福に通じる仏手柑など、それぞれ吉祥の意味をもつモチーフがたくさん描きこまれていることが分かります。その他、工芸品は、魚、海老、松竹梅、牡丹など、モチーフごとに並べてそれぞれの意味を説明したパネルとともに展示し、人々が身近なものに吉祥文様をほどこして幸せを願う気持ちを表していたことを紹介しました。学芸員による展示解説では、モチーフに隠された様々な意味をご紹介します。会場内には、「ぬりえコーナー」や撮影スポットも設けました。また、初めての試みとして、館内の喫茶コーナーを運営するふろーりすにご協力をいただき、期間限定スイーツを販売

するとともに、花鳥画の小物入れ等を作るワークショップを開催しました。(学芸員 杉山章子)

博物館で夏祭り!

昨年に引き続き、夏休み期間中に子ども向けの様々な催し物を開催しました。今年も特別講座として、地獄絵研究者の鷹巣純先生に「地獄はどんなところ?」と題して講演会を催し、多くの親子連れが参加してくれました。たいけんの森では、「壺釣りチャレンジ」「じょうもんキーホルダー」「モビールで大観覧会」を開催。また期間中に、博物館と三岸節子記念美術館の両方のワークシートに参加した子にプレゼントを渡す「博物館・美術館で自由研究!」も開催しました。



ワークシートで常設展を見学

連続講演会 尾張平野を語る23

今年度は、「尾張の宗教」をテーマに、宗教美術や考古学の分野からお話いただき、毎回たくさんの方にご参加いただきました。

7月21日(土)「宮の地獄絵―熊野観心十界図(浄観寺所蔵)を絵解く―」鷹巣純氏(愛知教育大学教授)

7月29日(日)「尾張平野の古代寺院と古瓦」梶原義実氏(名古屋大学大学院准教授)

8月26日(日)「宮のほとけたち―地域の仏像に親しむ―」見田隆鑑氏(椋山女学園大学教授)



8月26日(日)

企画展 2018一宮美術作家協会展

9月1日(土)~9月16日(日)

一宮美術作家協会会員73名による作品を展示しました。日本画、洋画、彫刻、立体、デザイン、工芸と各作家の個性あふれる多彩な作風を楽しむことができました。

企画展 一宮写真協会選抜写真展

9月20日(木)~9月30日(日)

一宮写真協会会員による選抜写真展。今回は、「34人のまなざし」というテーマで、34人の出品者それぞれの熱い思いを込めた作品が展示されました。

空調設備改修にともなう休館

10月から11月にかけて2ヶ月間休館とし、秋季特別展は開催できませんでしたが、展示ホールや常設展示室の空調機の熱源となる冷温水発生機を取り替えることができました。予算の厳しい昨今ですが、設備の老朽化が進んでいるため、今後も運営に必要な修繕等については順次行っていく予定です。

企画展 2018一宮市現代作家美術秀選展

平成30年12月1日(土)~16日(日)

第76回一宮市美術展の成果等をうけて、一宮市美術展市長賞受賞作品11点のほか、日本画、洋画、彫刻・立体、工芸、デザイン、書、写真など、各協会に所属する作家71名の作品を展示しました。



企画展「くらしの道具〜ことばになったモノたち〜」

平成3年度から続く同展も今年で28回目となりました。今年度も、市内42校すべての小学3年生が見学に訪れ、展示の見学をはじめ、長着・わら草履で昔の子どもになってみたり、石臼ひきでは、ひいた玄米が粉になる様子などを子ども興味津々な眼差しで見つめていました。

今回は「ことばになったモノたち」をテーマにことわざなどに登場する道具を展示しました。「灯台下暗し」「どんぶり勘定」など言葉は知っていても、実物を見る機会も少なくなり、この展示でどんな道具でどんな使い方をしているかを知っていたらいい機会になったかと思っております。また、各イベントも大勢の方にご参加いただきました。ごま(学芸員 吉川ひとみ)

「たこづくり教室」

1月13日(日)午後1時〜3時  
講師/澤木寛氏(日本の風の会尾張二宮支部会長)



たこづくり教室

「昔の遊びで遊んでみよう」

1月20日(日)、2月3日(日)  
・24日(日)午後1時〜4時  
「昔の道具の移り変わりを調べよう」

2月10日(日)午前10時〜10時30分、午後2時〜2時30分

「みんなでつくろう、ワラ刀」

3月2日(土)午前10時〜、午後1時〜、午後3時〜、いずれも30分ごと

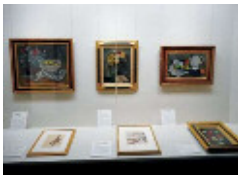
「16mmフィルム上映会」

1月26日(土)、2月3日(日)・9日(土)午前10時〜11時、午後2時〜3時

特集展示コーナー

2階の展示室の一角を「特集展示コーナー」と題し、博物館に所蔵あるいは寄託されている資料のうち、主に美術品を中心に様々なテーマで紹介しました。これまで、なかなか紹介する機会がなかった資料もあり、小規模ながら新聞にもたびたび取り上げられ、これを目当てにご来館いただくお客様も多数おられました。

- 4〜5月…妙興寺の名宝 十六羅漢図(重要文化財)
- 6〜9月…墨コレクション 近代の洋装
- 12〜1月…尾張の洋画 佐分眞
- 2〜3月…墨コレクション 陣羽織



尾張の洋画 佐分眞



墨コレクション 陣羽織



たいけんの森

毎週土曜・日曜・祝日に、夏休み期間中は毎日開催しました。

4月から6月は「民族衣装を着てみよう」ということで、オランダやインドの民族衣装を着てもらいました。ゴールデンウィークの4月28日から5月6日まで、近年恒例となっている「戦国のよろいを着てみよう」を行いました。皆、衣装やよろいを付けた姿をうれしそうに写真に撮ってもらっていました。6月から7月半ばは企画展「幸せをよぶ花鳥画展」にちなみ「折り紙で花鳥画」を、7月下旬から9月末までは「モビールで大展開」と題して博物館の展示物をモチーフにモビールを作りました。12月は画用紙で「クリスマスツリーづくり」を、1月は小麦粉粘土で和菓子をつくる「ねんどで和菓子」を、2月は特集展示にちなみ「陣羽織をデザイン」と題して、和風の紙でオリジナルの陣羽織を作りました。



折り紙で花鳥画



陣羽織をデザイン



モビールで大展開

博物館キッズクラブ

展覧会の見学や、バスツアーなど全6回の催し物を開催しました。

①6月10日(日)オリエンテーションを行った後、企画展「幸せをよぶ花鳥画展」を、クロスワードパズルを解きながら見学しました。

②7月22日(日)名古屋市にあるトヨタ産業技術記念館にて、自動織機や車の製造過程などを見学しました。

③8月11日(土・祝)学芸員といっしょにワークシートを解きながら常設展示室を見学しました。

④9月24日(月・祝)一宮写真協会の杉山幸夫さんから写真についてのレクチャーを受けた後、博物館隣の妙興寺境内を撮影しながら歩き、最後に撮影した写真の講習会をしました。

⑤12月15日(土)特集展示「尾張の洋画 佐分真」を見学し、ワークシートに記入しながら佐分さんの画業を学び、最後に気に入った作品の解説会をしてもらいました。

⑥2月17日(日)特集展示「墨コレクション 陣羽織」を見学し、武士がおしゃれを競った陣羽織について学びました。



市民文化財めぐり 10月3日(水)

市民の皆さんに、郷土の貴重な財産である文化財の愛護の精神を高めていただくために、昭和42年以来毎年を開催しているものです。今回は、妙興寺と耕雲院を訪れ、国指定の木造大応国師坐像など貴重な文化

財を、文化財保護審議会委員の解説とともにじっくりと見学する事ができました。



文化財防火デー関連行事

昭和24年1月26日に、奈良・法隆寺金堂壁画が焼損しました。以来、この日を「文化財防火デー」と定め、この日を中心に毎年、文化財を火災、震災その他の災害から守るため、全国的に文化財防火運動を展開し、文化財愛護思想の高揚を図ることになっており、一宮市でも実施しています。

■防火パトロール 1月16日(水)

市消防本部とともに、木曾川資料館、車塚古墳、博物館、妙興寺、真清田神社において防火指導や防火用設備等の点検を実施しました。

■防火訓練 1月25日(金)

市内今伊勢町の石刀神社において、消防署の協力のもと、拝殿からの出火を想定した防火訓練を実施しました。その後、真清田神社において文化財管理者研修会も行いました。



古文書講座「古文書にししむ」

5月から2月まで全10回の講座を開催しました。今年度は「尾張藩の村支配と村・百姓―藩の触と村のきまりを読む―」をテーマに、当館で所蔵して

いる「中島郡築込村加藤家文書」と「中島郡河田方村区有文書」をテキストとして、庄屋・村役人の心得や村のきまりなどを読み進めました。受講者は講師のわかりやすい解説に耳を傾けながら楽しく学んでいました。

展覧会への所蔵作品の貸し出し

■愛知県陶磁美術館「瀬戸陶芸の黎明―創作の源流を辿って―」(4月14日~6月17日)に鈴木八郎「織部花文陶管」。

■愛知県陶磁美術館「知られざる古代の名陶 猿投窯」(6月30日~8月26日)に浅井古墳群塩釜社古墳出土資料など6件8点。

■滋賀県立安土城考古博物館「キミそっくりな古代人がいたよ―原始・古代の人物表現―」(10月20日~12月2日)に八王子遺跡出土土偶3点。

■碧南市藤井達吉現代美術館ほか開催「愉しきかな! 人生―老当益壯の画人たち―」(10月30日~2月17日)に寛忠治「自画像(絶筆)」。

■蒲郡市博物館「アカヒコムラーみかんの下の弥生時代―」(11月10日~12月9日)に八王子遺跡出土資料9点、猫島遺跡出土資料12点。

■笠岡市立竹喬美術館「幸野棟嶺が伝えたこと」(12月21日~2月3日)に川合玉堂「奔瀑遊猿」。

博物館実習 8月8日~12日

愛知学院大学・中部大学・滋賀県立大学・京都女子大学・龍谷大学から全5名が参加しました。5日間わたって「たいけんの森」の手伝い、樫の木資料館の清掃など、博物館の様々な業務を経験してもらったほか、展示作業の実習として、館内ロビーの一部で所蔵品を用いて企画・展示をしてもらいました。



# 一宮市・若宮前遺跡の大量出土銭

堺市役所文化財課

嶋谷和彦

1. はじめに

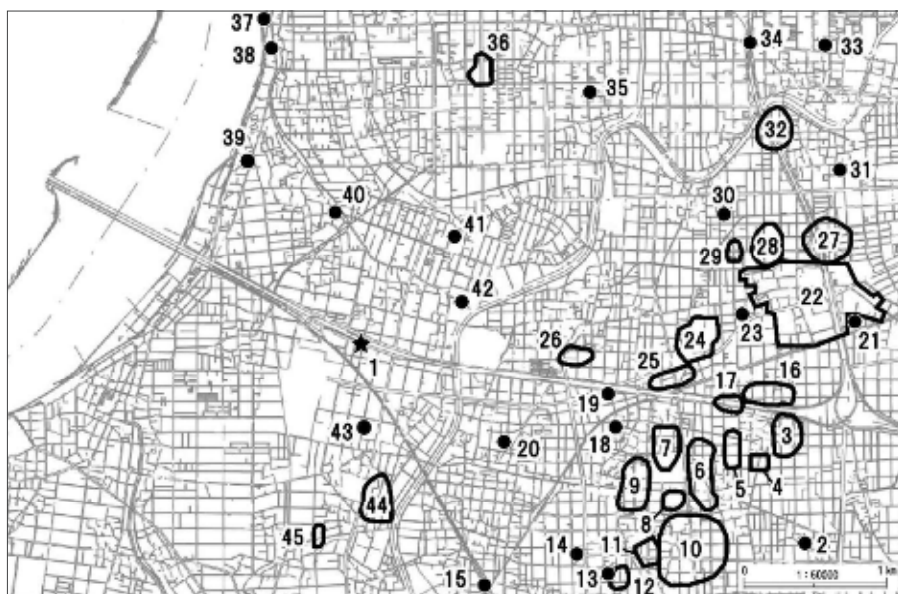
大量の銭貨が地中から発見される事象は、埋蔵銭、備蓄銭、埋納銭、一括出土銭、大量出土銭などよばれ、主に中国銭を用いていた中世においては特に貴重な歴史資料となっています。こうした資料を調査することによって、大量の銭貨が埋められた時期がある程度判明すると共に、出土した地域におけるその当時の銭貨流通の実態が見えてくることがあります。本稿では、最新の出土銭貨研究に基づき、愛知県宮市(旧尾西市)・若宮前遺跡(第1図)から出土した大量出土銭の調査成果について報告を行います。

2. 銭貨発見の経緯と既往の資料紹介

本資料は、昭和41年(1966)12月7日、愛知県尾西市(現宮市)西萩原字若宮前80.81番地で行われていた土取り作業中に発見されたものです。工事作業中の不時発見のため、発見時の共伴遺物や遺構などについては不明であると共に、当時の明確な行政記録や出土を報じた新聞記事も残念ながら存在していません。発見された遺物として採集・保管されているものは、常滑焼大甕の破片2点と多量の銭貨ですが、研究資料として正式にその詳細が学術的に報告されることはなく、現在に至っています。

本資料が初めて公式に紹介されたのは、『尾西市史 通史編 上巻』(尾西市史編さん委員会編1998年)であり、「第1章 市内の遺跡・遺物の発見史」の中に、「若宮前遺跡」として、12種類以上、計1,103枚の輸入銭が出土し、「備蓄銭(埋蔵銭)」であろうと記述しています。その後、一宮市博物館で開催された平成20年度企画展『宮三八市のにぎわい』の展示解説書(坪内2008年)中に、「若宮前遺跡出土銭」として、「年不詳 若宮前遺跡出土 一宮市尾西歴史民俗資料館蔵」というキャプションで銅銭の集合写真が、又、同博物館の平成29年度夏季小展示『なんで穴があいているの?穴の向こうに広がる世界』の解説書(瀧2017年)中にも、

「銅銭(輸入銭)」として、「出土地・若宮前遺跡(宮市西萩原) 大きさ・径2.4cm 種類・銅 所蔵者・宮市博物館」という基本データで計6枚の銭貨の個別写真がそれぞれ紹介されていますが、いずれの文献にも銭種別の出土枚数や詳細な内容については言及されておらず、銭貨の拓影も掲載されていません。



第1図

第1図 若宮前遺跡周辺遺跡分布図(1/50,000)

1. 若宮前遺跡 2. 東宮重城跡 3. 林野集落東遺跡 4. 大門先遺跡 5. 苗代遺跡
6. 河田方集落西遺跡 7. 二タ子遺跡 8. 萩原中学校河田遺跡 9. 串作集落東遺跡 10. 高木遺跡
11. 高木城跡 12. 滝集落東遺跡 13. 鶴飼民部宅跡 14. 滝神社古墳 15. 御払遺跡
16. 林野集落北遺跡 17. 南木戸遺跡 18. 二タ子砦屋敷跡 19. 萩原二子庚申塚古墳
20. 萩原城跡 21. 北川田遺跡 22. 荏安賀遺跡 23. 地藏前遺跡 24. 尾張病院山中遺跡
25. 雀戸遺跡 26. 朝宮集落南遺跡 27. 八王子遺跡 28. 齊宮寺遺跡 29. 薬師堂跡
30. 伝治越遺跡 31. 竜明寺遺跡 32. 毛受遺跡 33. 法圓寺中世墓遺跡 34. 馬引横手遺跡
35. 板倉貝塚 36. 大平遺跡 37. 起渡船場跡 38. 起宿本陣及び問屋跡・起宿脇本陣跡
39. 聖徳寺跡 40. 富田一里塚 41. 地宝院跡 42. 天神の渡し跡 43. 吉藤城跡
44. 明地集落東遺跡 45. 瀬江神社西遺跡

出土銭の現物は、筆者の調査当時、二宮市博物館に保管しており、同博物館のご許可を得て、平成23年(2011)8月1日、平成24年(2012)2月5日、同年7月29日、平成25年(2013)4月27日の計4回に渡り、筆者が二宮市博物館において実見調査を行いました。

### 3. 大量出土銭の内容

#### A. 埋蔵状況

多量の銭貨と共に、常滑焼大甕の破片も出土していますが、わずかに2点が現存するだけである為、この常滑焼大甕が銭貨を埋蔵するための収納容器であったかどうかは確実ではありません。

筆者の調査時には、コンテナの中に銭貨がまとめて保管してありましたが、2〜13枚が固着したものや、塊状のまま保持されているもの(第2図)も存在していることから、本資料は、銭貨を単独のバラ銭状態で収納していたのではなく、さしひも縋紐で束ねられたさしひも縋銭状態で埋蔵されていたことが判明します。

#### B. 銭種構成

銭貨は、バラ銭については一部さび銹落しを行いました。現状の保管状態で固着しているものも多数あり、これらについては未クリーニングのまま分離せずに、元の状態を保持して調査を実施しました。その為、すべての銭銘を判読することはできませんでしたが、判読できるものはすべて判読を行いました。縋銭の残欠については、固着している両端で銭銘が読めるものもあつたため、縋残欠枚数単位での内容も整理した上で、銭種構成一覧表を作成しました(表1)。また、塊状の資料については、銭貨埋蔵時の状態が把握できると共に、将来的な展示にも供することができる資料であると判断して、やはり分解せずに側面から銭貨の枚数をカウントしました。



第2図 若宮前遺跡出土の銭塊

本資料の出土合計枚数については、『尾西市史 通史編 上巻』には、「12種類以上、計1,103枚」と記されていますが、筆者の今回の調査による枚数カウントでは、「36種類 計1,107枚」になります(表1)。合計枚数に相違がありますが、おそらく塊状の資料が存在する為、前者の作業の際にミスカウントをしたものと推察されます。

銭種については、『尾西市史 通史編 上巻』には、「天雲元寶」という不明銭があると記載されていますが、筆者の判読作業ではこれに該当する銭貨は見出せず、おそらく「天聖元寶」の判読ミスであると考えられ、実見した限りでは、文字が判読できるものは全てこれまでに実例のある銭銘でした。尚、固着している塊状中やさしひも縋残欠中の内容によつては、本稿の検討結果が変更となる可能性もありますが、ここでは、判読した範囲から検討していくことにします。

最古銭は開元通寶(唐:621年初鑄)、最新銭は宣徳通寶(明:1433年初鑄)で、調査時の銭貨の合計枚数は、銭塊やさしひも縋残欠も含めて1,107枚です。

中国の王朝別の構成をみると、銭銘が判読できた中の約87.7%が北宋銭で、続いて約7.3%が唐銭・南唐銭、約2.6%が南宋銭、約2.3%が明銭と続きます。最新銭が宣徳通寶であることより、時期区分は、鈴木公雄氏の備蓄銭8区分では、第6期(15世紀第4四半期〜16世紀第2四半期)に該当します(鈴木2002年)が、明銭の占有率が約2.3%と少なく、最新銭の宣徳通寶もわずかに1枚しか存在しないことや、後述するように、粗悪銭が少なく、当初から全く文字の存在しない無文銭(嶋谷1998年・2005年)も確認できないことから、本資料は15世紀第4四半期頃に埋蔵されたものと推定されます。

銭種別枚数のベスト5は、①元豊通寶43枚(約12.6%)、②皇宋通寶38枚(約11.1%)、③熙寧元寶34枚(約10.0%)、④開元通寶(南唐銭を除く)24枚(約7.0%)、⑤天聖元寶・元祐通寶21枚(約6.2%)となり、全国的大量出土銭に見られる上位銭種と同様の傾向を示していますが、出土枚数が比較的少ない銭種としては、南唐の開元通寶(960年初鑄)や金の正隆元寶(1157年初鑄)が各1枚含まれています。

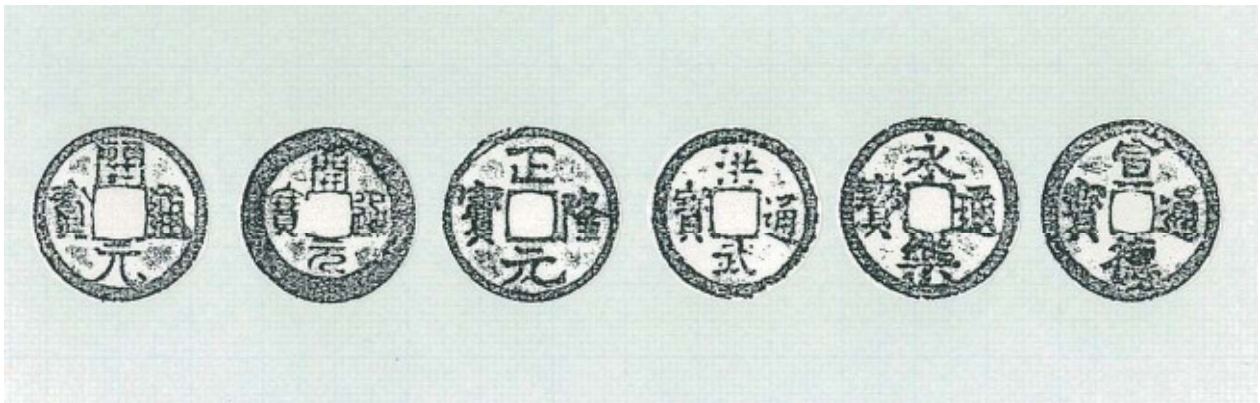
尚、今回は紙数の関係上、本資料の内、最古銭・最新銭など代表的な銭貨の表面の拓影を掲げておきます(第3図)。

銭種不明の銭貨は、全体の約69.2%にも達しますが、固着した銭塊や縋銭の残欠を分離しなかったのと同様に、現状を保持することを主眼に置いたため、しめうちやく銹着している銭貨のクリーニング(銹落とし)をせずに調査を実施したことが主たる原因であり、もともとの銭貨の質が極めて悪いという理由ではありません。このことは、縋でない単独のバラ銭で判読できなかったものは約7.8%に留まることから、銭貨自体は、全般的に文字の不鮮明な粗悪銭や磨耗が進んだような銭貨は少ないと言えるでしょう。

本資料は、全体の90%が永楽通寶で構成される長崎県壱岐市(旧・郷ノ浦町)・平人うづか出土銭のように、人為的な選択行為は働いておらず、当時に本地域に広く流通し、純粹に身近にあった銭貨をひとまとめにしたものであると考えられます。

#### 4. おわりに

以上、簡単ですが、若宮前遺跡発見の大量出土銭の資料紹介を行いました。出土総枚数的には、規模として特別に大きなものではありませんが、中世における尾張地域の銭使いの様相を語る上で、重要な出土銭であ



第3図 代表的な出土銭貨拓影(原寸大)

ると言えるでしょう。本資料はこれまで研究対象としては、銭貨の内容等、その実態を報告されていませんでしたが、今後は歴史的な背景からの考察も含め、本資料が出土銭貨研究の対象として「市民権」を得ると共に、地域の歴史的教材としても活用されることを心から願うものです。

資料調査から本稿発表までかなりの期日が空いてしまいましたが、できる限り地域の皆様の目に触れて、少しでも今後の研究や啓発普及に寄与できればという筆者の思いが強く、本稿を掲載して頂ける地元メディアを探索・打診していたからに他ありませんので、ご寛恕をお願い致します。

最後に、本資料の調査をご快諾いただくと共に、調査の実施に際しても懇切丁寧なご対応を頂いた宮市博物館と、調査から本稿掲載まで色々とお世話になりました松本彩氏・藤井雅大氏・瀧はる香氏に心より深謝申し上げます。

#### (参考文献)

- ・ 嶋谷和彦 1998年「中世の無文銭とその成分組成」『季刊 考古学』No.62 (特集 古代・中世の銅生産) 雄山閣
- ・ 嶋谷和彦 2005年「出土銭貨の語るもの」『モノとココロの資料学・中世史料論の新段階』 高志書院
- ・ 鈴木公雄 2002年『銭の考古学』(歴史文化ライブラリー140) 吉川弘文館
- ・ 瀧はる香 2017年「1. 銅銭(輸入銭)『なんで穴があいているの?』穴の向こうに広がる世界」(平成29年度夏季小展示解説書) 一宮市博物館
- ・ 坪内淳仁 2008年「I. 市場のはじまり10. 若宮前遺跡出土銭」『宮三八市の「ぎわい」(平成20年度企画展解説書) 一宮市博物館
- ・ 尾西市史編さん委員会編 1998年「第1章 市内の遺跡・遺物の発見史 若宮前遺跡」『尾西市史 通史編 上巻』 尾西市



## 表1 若宮前遺跡出土錢 錢種構成一覽表

錢種	王朝	初鑄年	実見調査枚数(残存状態枚数別)													合計	備考	
			1枚	2枚	3枚	4枚	5枚	6枚	7枚	8枚	9枚	10枚	11枚	13枚	塊			
開元通寶	唐	621	21		2	1											24	背上月1枚
開元通寶	南唐	960	1														1	
宋通元寶	北宋	960	2			1											3	
淳化元寶	北宋	990	3	1													4	
至道元寶	北宋	995	3	1						1							5	
咸平元寶	北宋	998	7														7	
景德元寶	北宋	1004	7	1						1							9	
祥符元寶	北宋	1009	10	1										1		1	13	
祥符通寶	北宋	1009	12													1	13	
天禧通寶	北宋	1017	11	1													12	
天聖元寶	北宋	1023	16	1	1				1	1			1				21	
景祐元寶	北宋	1034	6					1									7	
皇宋通寶	北宋	1038	31	1	2	1		1				1	1				38	
至和元寶	北宋	1054	1		1					1							3	
至和通寶	北宋	1054	1		1												2	
嘉祐元寶	北宋	1056	1			1											2	
嘉祐通寶	北宋	1056	5														5	
治平元寶	北宋	1064	5			1											6	
熙寧元寶	北宋	1068	24	1	1	1	2		2	1	2						34	
元豐通寶	北宋	1078	36	2						2			1	1		1	43	
元祐通寶	北宋	1086	17	2	1	1											21	
紹聖元寶	北宋	1094	9			2		1	1	2	2	1					18	
元符通寶	北宋	1098	6	1													7	
聖宋元寶	北宋	1101	7			1											8	
大觀通寶	北宋	1107	1	1		1									1		4	
政和通寶	北宋	1111	11									1		1		1	14	
正隆元寶	金	1157	1														1	
淳熙元寶	南宋	1174	2														2	背「十二」1枚、背上月1枚
紹熙元寶	南宋	1190	1														1	
慶元通寶	南宋	1195	1														1	
嘉定通寶	南宋	1208	1														1	
淳祐元寶	南宋	1241	1	1													2	背「十二」1枚
皇宋元寶	南宋	1253	1														1	背「元」1枚
洪武通寶	明	1368	5														5	
永樂通寶	明	1408	2														2	
宣德通寶	明	1433	1														1	
不明			23	49	33	37	53	45	44	72	48	55	31	37	239	766		
合計			293	64	42	48	55	48	49	80	54	60	33	39	242	1107		

## 福塚前遺跡発掘調査について

一宮市では、市道福塚線拡幅工事に先立ち、平成30年11月5日から平成31年3月31日まで、福塚前遺跡（今伊勢町馬寄）の発掘調査を行っています。市内では約20年ぶりとなる本発掘調査では、一宮市の新たな歴史の二面が明らかになりました。

今回調査を行った福塚前遺跡は、昭和46年の宅地造成工事の際に見つかりました。弥生土器や中世（鎌倉時代、室町時代）の井戸が確認されていますが、開発期真つ口中で、今のようにつかりと法整備もなされていない傾だったため、それ以上の情報は得られていません。そのため、集落跡や墓といった遺跡の性格は今までよくわかっていませんでした。

昭和46年に遺跡の存在が確認された箇所から、東へ100mほど離れたところに、今回の調査区があります。調査の結果、古墳の周溝や土坑墓といった墓跡がいくつも見つかかり、墓域（墓が集中した地域）であることが明らかになりました。過去の例から集落跡が出てくるかもしれないと考えていたので、これは予想外の結果でした。他にも中世の方形土坑や、田の跡と思われる遺構も見つかっています。また、遺物としては、刻み文様が美しい滑石製の紡錘車、須恵器や土師器、山茶碗といったやきもの、磨製石斧などの石製品が出土しています。今後、整理をする段階でより詳しく見ていくことにより、もっと遺跡の性格がはつきりしてきます。

発掘調査は、報告書を刊行するまでが発掘調査です。これから遺構の図面や遺物を精査し、しっかりと調べていきます。これからの続報にご期待ください。  
(学芸員 瀧はる香)



発掘調査作業風景



方形土坑群



古墳の周溝 (上から撮影)



短頸壺 (須恵器)



紡錘車

## 現地説明会を開催しました

平成31年2月23日(土)午前10時～11時に、発掘調査現場にて福塚前遺跡現地説明会を行いました。ぎりぎりまで雨の予報でしたが、当日は抜けるような快晴になり、約250人の方々にお越しいただきました。皆さん実際の発掘現場で遺構や遺物を目にしながら、興味深げに話に耳を傾けていました。

※現地説明会の資料は、博物館受付にて配布または博物館ウェブサイトからダウンロードができます。



## 展覧会・催し物

### 民俗芸能公演

5月18日(土) 宮後住吉踊  
5月19日(日) ばしょう踊  
5月26日(日) 島文楽

### 夏季イベント 博物館で夏祭り!

7月20日(土)―8月31日(土)

### 企画展 2019 一宮美術作家協会展

7月20日(土)―8月4日(日)

### 企画展 一宮写真協会選抜写真展

8月8日(木)―18日(日)

### 企画展 真清田神社展

9月3日(火)―9月29日(日)

尾張平野を語る24

企画展「真清田神社展」に関する連続講演会

### 特別展 生誕120年記念 佐藤一英

10月12日(土)―11月24日(日)

講演会・朗読のイベントなど開催予定

### 企画展 2019 一宮市現代作家美術秀選展

11月30日(土)―12月15日(日)

### 企画展 くらしの道具

1月11日(土)―3月8日(日)

## 特別展

生誕120年記念

佐藤一英



佐藤一英(長谷川公茂撮影)

今年、長編詩「大和し美し」などで知られる「一宮市萩原町出身の詩人佐藤一英(1899〜1979)の生誕120年の年にあたります。

佐藤一英は、東京の大学に在学中、アメリカの小説家で詩人でもあったエドガー・アラン・ポーの詩に心酔。菊池寛に小説を書くことを勧められながらそれを固辞し詩の世界を志しました。そして大正11年、23歳のときに名古屋の詩誌「青騎士」に参加するとともに、詩集『青天』を刊行し、新進の詩人として認められました。その後、苦悩の末、昭和6年に日本武尊をうたった「大和し美し」を執筆。さらに、昭和10年、38歳の時には、聯組詩「空海頌」四十七篇を完成させ、新たな詩法「聯」(頭韻十二音律四行)を確立しました。この二作は棟方志功により板画化され、広く知られることとなりました。

一英は詩作の他にも昭和6年に雑誌「児童文学」を編集・発行して、まだ無名であった宮沢賢治の作品を掲載しました。その後、児童向けに万葉集や平家物語、太平記など、古典文学を児童向けに分かりやすく著した本の執筆も行いました。

47歳で終戦を迎え萩原町に戻ると寺に焼け残ったイチ

イカシの古木に感銘を受け、「日本の文化の根源は樫の木にある」とする「樫の木文化論」を展開し始めました。これは、北緯35度線上に照葉樹林が繁茂し、ここに住む人々は樫の木を農具として大地を掘り起こし豊かな文化を築いたことに注目したものでした。一英は、故郷の農民の生きる姿や豊かな自然を見つめながら思索を深めました。その過程で収集した使い古された樫の木の農具等は、昭和44年に自宅近くに開館した樫の木文化資料館に収められ、人々の暮らしと自然の繋がりの深さを伝えていきます。

また忘れてならないのは「万葉論争」です。一英は万葉集に詠まれていた高松の地は萩原町の高松であると主張し、専門家の間で論争が生まれ、当時の新聞紙上を賑わせました。昭和32年には、英の提唱によって高松に万葉公園が開園し、歌碑とともに万葉集に詠まれた植物が植えられました。その他にも一英は、愛する尾張の地でたくさん校歌を作詞するなど大きな足跡を残しました。

展覧会期間中は、講演会やシンポジウムのほか、詩の朗読イベントなども開催する予定です。節目の年に、その足跡を広く知っていただく機会にしたいと思います。

(学芸員 杉山章子)



佐藤一英「無心観月」

## 特集展示コーナー

2階展示室2・3にて、博物館の所蔵品や寄託品を様々なテーマで順次ご紹介していきます。

### 川合玉堂の名品

前期 4月9日(火)～5月12日(日)  
後期 5月14日(火)～6月30日(日)  
鈴木八郎 陶芸の世界



川合玉堂<長閑>

### 妙興寺の名宝 妙興寺文書重要文化財

前期10月12日(土)～11月4日(月・休)  
後期11月6日(水)～12月1日(日)  
尾張の洋画 笈忠治

12月3日(火)～2月2日(日)  
墨コレクシヨ 火事装束  
2月4日(火)～4月5日(日)



笈忠治  
<藤蔓を冠した年老いたる自画像>

## たんけんの森 わくわく体験

◆開催日時／土曜・日曜・祝日(夏休み・冬休み期間中は毎日) 午前9時30分・正午・午後1時・4時30分  
◆対象／中学生以下

### 民族衣装を着てみよう ラオス・メキシコなど

4/6(土)・30(火)・祝・5/11(土)・6/30(日)  
戦国のよるいを着てみよう

5/1(水)・祝・5/6(月・休)

とびだすカードで展覧会 7/6(土)・9/1(日)

古地図で紙バッグ 9/7(土)・9/29(日)

小さな詩集 10/12(土)・11/24(日)

紙でつくる門松 11/30(土)・1/26(日)

かわり絵カード 2/1(土)・3/29(日)

戦国の鎧を着てみようおとな編 3/21(土)・22(日)

## 受講生・会員の募集

古文書講座「古文書にしたいむ」

博物館で保管されている江戸時代の村方文書を中心とした解説及びその歴史的背景について学びます。

◆日程／2019年5月11日～2020年2月28日の原則毎月第2土曜日(ただし7月～10月は第1土曜日、午後2時～4時(全10回))  
◆対象／市内在住・在勤の16歳以上の方

講師／小川二郎氏(市文化財保護審議会委員)

◆定員／9人(抽選) ◆受講料等／3000円(教材費)  
◆申し込み／はがきに住所(在勤の方は勤務先の所在地)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入し、「古文書にしたいむ希望」と明記の上、博物館まで。締め切りは4月12日(当日消印有効)。

## 博物館キッズクラブ新規会員の募集

学芸員と一緒に展覧会を鑑賞したり、バスターアデーで他の館を見学したりします。

◆対象／小学校3年生～中学生 20人程

◆申込／はがき又はFAXに住所・氏名・学校名・学年・電話番号・保護者名・メールアドレス又はFAX番号を記入の上、博物館「キッズクラブ係」まで。「いちのみや子育て支援サイト・アプリ」からも申し込み可。締め切りは5月24日(金)(消印有効)。



一宮市博物館  
だより

第62号

発行日/平成31年3月31日  
編集・発行/一宮市博物館  
印刷/アサヒ印刷工業株式会社

Twitter 公式アカウント @138citymuseum  
Facebook 公式ページ https://www.facebook.com/ichinomiya.city.museum/ www.facebook.com/ichinomiya.city.museum/  
Instagram 公式アカウント @ichinomiya\_city\_museum

一宮市博物館公式SNS 最新のイベント情報や博物館の日常などを更新しています!

交通アクセス  
名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分  
「博物館西」下車徒歩5分

〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390番地  
TEL0586-46-3215 FAX0586-46-3216 URL http://www.icm-jp.com/

### 利用案内

【開館時間】 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)  
【休館日】 毎週月曜日(ただし、祝日休日にあたる場合は翌日に休館)、祝日の翌日(ただし、土曜日・日曜日または祝日の場合は開館)、年末年始(12/28～31、1/1～4)

### 【観覧料】

	一般	高校・大学生	小・中学生
常設観覧料	個人 200円	100円	50円
	20人以上の団体 160円	80円	40円
博物館バスポート(年間観覧券)	800円	400円	200円
ミゼカード(年間共通観覧券)	2,000円	1,000円	500円
常設展示共通観覧券	400円	200円	100円

※未就学児および市内の小・中学生は無料。市外小・中学生は土曜日無料。  
※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書を提示された方は無料。  
※身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。  
※博物館バスポートおよびミゼカードは、発行から1年間有効。  
※博物館バスポートは一宮市博物館の常設展示および特別展示を有効期間中何度でも観覧できます。  
※常設展示共通観覧券は、一宮市博物館および一宮市二神節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧できます。有効期限はありません。  
※ミゼカードは、一宮市博物館および一宮市二神節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧できます。有効期限はありません。

【特別観覧料】 特別展・企画展の観覧料はその都度定めます。

【無料ゾーン】 展示ホール・たいけんの森・ギャラリー

※ 過去の博物館だよりは、館のwebsiteでご確認いただけます。ご利用ください。